

喜びのために咲くスイセンの丘 海を超えて人を呼ぶ



profile

昭和16年1月21日
生まれ。趣味は旅行。
富丘地区在住。83歳。

Spotlight

スポットライト



田中農園

田中 義啓さん

緑 豊かな初夏の富丘地区。木々が生い茂る道に沿って車を走らせると、羊蹄山を望む一角に観光客の車が並んでいました。人々の視線の先にあるのは、無数に咲き誇るスイセン。旅の思い出を彩る花々は、この地で長年、農業を営む田中義啓さんが守

り育ててきました。

田中さんは、明治の開拓時代から続く農家の生まれ。かつての富丘は、生家と同じくイモやビートを育てる100戸ほどの農家などが暮らしていたといい、辺りには畑が広がっていました。

時代の流れからか畑を手放す人が増え、農家もまばらになった17年ほど前。知人から引き取らないかと持ち掛けられたのがスイセンの球根でした。「そのまま捨てるのも痛ましいと思ったんです」と、手始めに3500個の球根を手に入れ、畑地を利用してスイセンの丘をつくることにしました。

トラクターでうねをつくり、手ずから球根を植える一連の作業は田中さんが一人で行いました。「自分のやれる範囲でやれたらいいんです」。それから毎年球根を引き取り、丘は少しずつ広がってきました。

もともと田中さんの自宅の庭には大きな花壇があり、スイセンも楽しむために育て

ていました。人知れず咲いていたスイセンが人々の目に留まるようになったのは10年ほど前。評判が評判を呼び、新聞やテレビにも取り上げられるようになりました。

「入園料を取ったらいじゃないか」「球根を売ってほしい」。何度も言われましたが、田中さんは「お客さんが喜んでる姿が見れたらそれが一番」と、何の対価も求めています。人と自分の喜びのためにつくった花園は、今やインターネットを介して世界中に景観が広がり、今年は香港や台湾の観光客も足を運んでくれました。

シーズン中は連日のように大勢でにぎわうスイセンの丘ですが、田中さんは「町の人に一人でも多く来てもらうのが一番うれしいです」と、来訪を心待ちにしています。丹精込めて育ててきた花々がこれから咲き続けるために、その姿が少しでも町の人々の間に広まればと願っています。

東奔西走



洞 爺湖マラソンが50回を迎えました。スタッフやランナーにお話を伺って感じたのは、みなさんが走る喜び、走ってもらう喜びにあふれていること。長く大会を続ける上でもっとも大切なことを知ることができました。(D.Y)
昨 年は天候に恵まれなかった洞爺湖マラソンですが、今年は快晴で第50回という節目を迎えることができました。会場にいた皆さんの笑顔を見て、この大会がいつまでも長く続くといいなと改めて思いました。(Y.A)

町公式LINEを友だち追加！

イベントや防災など様々な情報に加え、フルカラー版広報紙もご覧いただけます！

